

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (杉の子特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども ・自己肯定感や他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と高い人権感覚を有し、いじめや体罰を許さず、学校の課題に情熱をもって粘り強く取り組むことで児童生徒のみならず、地域や保護者からも信頼される教員 ・児童生徒の障がいのように応じて、就学前から卒業後までの一貫した指導・支援に保護者と連携して主体的に実践できる教員 ・他の教職員と協調して学校の抱える様々な課題の解決に向けて、積極的に取り組むと共に地域の各学校・関係機関との信頼関係を構築できる教員 ・防災対策や防災教育に積極的に取り組み、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教員 ・知的障がい児教育並びに肢体不自由児教育に関わる実践研究に真摯に取り組む、児童生徒の成長を保護者と共に喜び合える教員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加に向けて、様々な体験的な学習を経験して、卒業後の生活に必要な力や主体性を育んでほしい。 ・一人ひとりが活かされる仲間づくりを推進してほしい。 <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けた教育と進路実現を推進してほしい。 ・安心・安全な学習環境を維持継続してほしい。 <p>〈地域の学校・関係機関〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における特別支援教育の充実・推進に向け、センター的機能を発揮してほしい。 ・鈴鹿病院から通学する生徒の健康維持と学びの保障 	
	(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育 <p>〈地域の学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通しての共生共学に対する理解と推進 <p>〈地域の特別支援教育のセンター的機能〉</p> <p>〈地域の関係機関(企業・福祉施設等)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供や障がい者理解に向けた支援 <p>〈地域社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動の公開と情報提供 〈鈴鹿病院〉 ・通学する生徒の学校生活に関わる情報共有

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の対応等引き続き留意して、子どもたちが安全に安心して学ぶことができる環境を整えてほしい。特に、新型コロナウイルス感染症の対策と学校と保護者との円滑なコミュニケーションを図ることについて両立をお願いしたい。 ・コロナ禍における地域との連携の図り方、行事等について、見直すいい機会と捉え検討が必要ではないか。 ・児童生徒の情報の引継ぎについて、職員のポイントが高いが、保護者は十分満足であるとはいえないので、内容や方法の検討が必要ではないか。 				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="268 376 379 969"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="379 376 1528 969"> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もコロナ禍の影響が見込まれることから、ICT教育を始めとした安心・安全な教育環境を整えるとともに行事や教育活動の実施形態等の見直しを進め、教育内容の保障を行う必要がある。 ・児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導支援、新学習指導要領に対応した一貫性のある教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの考え方を反映し、各教科等の指導内容やその関連性についても定期的な点検を行いつつ、目標設定と評価が一体となった教育実践を推進する必要がある。 ・自立と社会参加を目指す教育の充実に向け、卒業後の生活を見通したキャリア教育の推進のため、体験的な学習を効果的に取り入れていく必要がある。 ・教育内容を充実させるために、家庭や関係機関との連携強化に加えて、ケース会議等の充実を図り、教育内容が積み上がるように指導計画や引継ぎ等について検討を行うことや授業公開等による授業力の向上を目指すことで専門性の向上を図る必要がある。 ・児童生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切にす教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="268 969 379 1529"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="379 969 1528 1529"> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教職員が不祥事を他人事とせず、コンプライアンス意識を持ち続けながら教育活動にあたるために、信頼される学校であるための行動計画を作成し、取り組む必要がある。 ・地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信が求められており、特別支援教育におけるセンター的機能の更なる充実を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症などに対応を含めた緊急時の対応のために、組織力を向上させる必要がある。また、大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。さらに、危機管理に対する保護者との連携強化に努めると共に石薬師高校と連携が図られた危機管理マニュアルの整備が必要である。 ・保護者や石薬師分校、関係機関（鈴鹿病院等）との連携及び情報共有をし、地域とのつながりを強め、開かれた学校を意識した教育活動を展開・推進する必要がある。 ・年代や教職経験が様々な教職員が協力し助け合い、働きやすい職場づくりが求められている。また、業務内容の見直しを進め、総勤務時間の縮減に向けた取組を推進していく必要がある。 </td> </tr> </table>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もコロナ禍の影響が見込まれることから、ICT教育を始めとした安心・安全な教育環境を整えるとともに行事や教育活動の実施形態等の見直しを進め、教育内容の保障を行う必要がある。 ・児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導支援、新学習指導要領に対応した一貫性のある教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの考え方を反映し、各教科等の指導内容やその関連性についても定期的な点検を行いつつ、目標設定と評価が一体となった教育実践を推進する必要がある。 ・自立と社会参加を目指す教育の充実に向け、卒業後の生活を見通したキャリア教育の推進のため、体験的な学習を効果的に取り入れていく必要がある。 ・教育内容を充実させるために、家庭や関係機関との連携強化に加えて、ケース会議等の充実を図り、教育内容が積み上がるように指導計画や引継ぎ等について検討を行うことや授業公開等による授業力の向上を目指すことで専門性の向上を図る必要がある。 ・児童生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切にす教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。 	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教職員が不祥事を他人事とせず、コンプライアンス意識を持ち続けながら教育活動にあたるために、信頼される学校であるための行動計画を作成し、取り組む必要がある。 ・地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信が求められており、特別支援教育におけるセンター的機能の更なる充実を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症などに対応を含めた緊急時の対応のために、組織力を向上させる必要がある。また、大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。さらに、危機管理に対する保護者との連携強化に努めると共に石薬師高校と連携が図られた危機管理マニュアルの整備が必要である。 ・保護者や石薬師分校、関係機関（鈴鹿病院等）との連携及び情報共有をし、地域とのつながりを強め、開かれた学校を意識した教育活動を展開・推進する必要がある。 ・年代や教職経験が様々な教職員が協力し助け合い、働きやすい職場づくりが求められている。また、業務内容の見直しを進め、総勤務時間の縮減に向けた取組を推進していく必要がある。
<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もコロナ禍の影響が見込まれることから、ICT教育を始めとした安心・安全な教育環境を整えるとともに行事や教育活動の実施形態等の見直しを進め、教育内容の保障を行う必要がある。 ・児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導支援、新学習指導要領に対応した一貫性のある教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの考え方を反映し、各教科等の指導内容やその関連性についても定期的な点検を行いつつ、目標設定と評価が一体となった教育実践を推進する必要がある。 ・自立と社会参加を目指す教育の充実に向け、卒業後の生活を見通したキャリア教育の推進のため、体験的な学習を効果的に取り入れていく必要がある。 ・教育内容を充実させるために、家庭や関係機関との連携強化に加えて、ケース会議等の充実を図り、教育内容が積み上がるように指導計画や引継ぎ等について検討を行うことや授業公開等による授業力の向上を目指すことで専門性の向上を図る必要がある。 ・児童生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切にす教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。 				
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教職員が不祥事を他人事とせず、コンプライアンス意識を持ち続けながら教育活動にあたるために、信頼される学校であるための行動計画を作成し、取り組む必要がある。 ・地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信が求められており、特別支援教育におけるセンター的機能の更なる充実を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症などに対応を含めた緊急時の対応のために、組織力を向上させる必要がある。また、大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。さらに、危機管理に対する保護者との連携強化に努めると共に石薬師高校と連携が図られた危機管理マニュアルの整備が必要である。 ・保護者や石薬師分校、関係機関（鈴鹿病院等）との連携及び情報共有をし、地域とのつながりを強め、開かれた学校を意識した教育活動を展開・推進する必要がある。 ・年代や教職経験が様々な教職員が協力し助け合い、働きやすい職場づくりが求められている。また、業務内容の見直しを進め、総勤務時間の縮減に向けた取組を推進していく必要がある。 				

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源を活用した職業教育の内容の見直しを進める。また、令和4年度の高等部新学習指導要領の本格実施を受け、児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応できるよう、ICT教育も推進しながらつけさせたい力、学ばせたい内容を整理する。 ・令和5年度の本校中学部の石薬師分校移転を見据え、もう一度本校小中学部と石薬師分校の学びについて系統性を視野に入れながら新たな教育課程を編成し、卒業後の生活や地域への社会参画を見通したキャリア教育を推進する。 ・令和5年度の肢体不自由児教育関わる校区再編に伴い、重度重複障がい児教育について専門性や授業力の向上を図ると共に、安心安全な医療的ケア実施のための体制整えることで児童生徒の学びを保証する。 ・児童生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切にす教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。 ・キャリア教育の視点を踏まえ、学習指導要領の教科目標や内容に対応するなど毎日の学習と関連付けた体験的な学習に取り組む。
-------------	--

- ・令和5年度の肢体不自由児教育の校区再編に伴い、重度重複障がい児教育の更なる充実を図り、安心安全な医療的ケアの実施ができるように体制整備に加えて施設整備や校内体制の構築に向けて組織的に検討を進めていく。
- ・組織的な実践力・対応力を構築し、専門性や授業力向上のため、研修機会の充実を図る。また、その成果を地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信することで還元し、特別支援教育におけるセンター的機能の充実を図る。
- ・大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を図る。また、危機管理に対する保護者との連携を推進することで、特別なニーズのある生徒に対する支援体制等を一層強化していく。
- ・石薬師分校や関係機関（鈴鹿病院等）、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。
- ・働きやすい職場づくりや総勤務時間の縮減や業務の偏りの解消のため、職場内で協力・応援体制がとれるよう、各分掌や委員会、学年集団が業務の精選に努める。その上で、生徒や保護者とのコミュニケーションを大切にし、信頼される学校を目指す。
- ・管理職がリーダーシップをとり、いじめや体罰を許さず、相談しやすい職場環境づくり、ハラスメントのない職場づくりに取り組む。
- ・信頼される学校であるための行動計画に基づき、不祥事の根絶と県民からの信頼回復に向けた組織運営ができるよう、年間を通じた定期的な校内研修等に取り組む。

1 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○キャリア教育の推進、新学習指導要領に対応した教育実践の確立	<p>○キャリア教育プログラムに基づいた授業の充実</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応したキャリア教育プログラムの点検と修正 ・キャリア教育プログラムに基づく授業公開(教員相互による授業見学と研究協議)の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家を招いてキャリア教育プログラム及びその活用についての検討 4回 ・新学習指導要領の対応と「杉の子キャリア教育プログラム」を活用した授業公開の実施 50回以上 ・キャリア教育プログラムの活用についての教員アンケートの満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施済 ・実施済 ・専門家を招いての検討 3回実施 ・授業公開の実施 35回実施 ・教員アンケート満足度 87% 	
○命を大切にす教育、人権教育の推進	<p>○児童生徒一人ひとりが自己肯定感を高め、お互いを認め合い適切な人間関係を形成する取組の推進</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉の子人権週間や、いじめ防止月間の取組を中心とした、自分自身や相手を大切にする気持ちを育む人権意識等の向上 ・人権等の職員研修の実施により人権意識等の向上と各自の人権教育等に対する振り返りの機会の設定 ・新型コロナウイルス感染防止対策による児童生徒のストレス等の解消や心のケアについての取組 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりを進め、児童生徒会を中心としていじめをなくすための掲示物や動画メッセージを作成し全校で視聴 年 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自いじめアンケートを実施(10月) ・職員人権研修会の実施 ・自尊感情を育てる授業の実践 ・いじめ防止強化月間に児童会中心に全校での取組 	

<p>○体験的な学習の充実</p>	<p>間5回 ・職員研修会実施後の人権意識向上の達成度 80%以上</p> <p>○新学習指導要領に示されている実際の社会や生活に必要な知識・技能や、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力などが育成できる校外学習や職業実習などの取組</p> <p>【活動指標】</p> <p>・社会体験や公共のルールを身につけることを目的とした校外での学習の実施</p> <p>・働くことの意義や知識技能を身につけることを目的とした校内実習やコロナウイルス感染拡大を考慮した現場実習の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>・小学部校外学習における新学習指導要領小学部「生活」の内容「きまり」「社会の仕組みと公共施設」から設定した個人目標の達成率 80%以上</p> <p>・新学習指導要領中学部「職業・家庭」の内容「職業生活」から設定した個人目標の達成率 80%以上</p> <p>・現場実習の実施率 80%以上</p>	<p>・動画視聴年間5回 ・教職員の人権意識向上達成度 83%</p> <p>・校外学習の実施 小学部1回 中学部1回 中学部B課程1回 小中C課程2回</p> <p>・中学部校内実習 11月 ・高等部現場実習 第1期:6月 第2期:11月</p> <p>・個人目標達成率(小学部)98%</p> <p>・個人目標達成率(中学部)87%</p> <p>・実施率 100%</p>	
-------------------	---	---	--

改善課題

キャリア教育の推進等については、コロナ禍における授業公開ということもあり、実施回数を達成することができなかった。来年度は指標の見直しを行いつつ、内容の充実に取り組む必要がある。

体験的な学習の充実については、校外学習等の実施が感染防止の観点から中止や延期になり、実施回数としては年度当初の計画より少なくなった。来年度もコロナ禍の影響を受けることが見込まれることから、限られた実施のなかで、いかに学習内容を充実させるかといった検討と取組が必要である。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>○センター的機能の充実</p> <p>○組織的な実践力・対応力の構築、専門</p>	<p>○地域の特別支援教育についての理解啓発および専門性向上のための取組</p> <p>【活動指標】</p> <p>・公開研修会の実施 ・参加者のニーズに合わせた体験研修の実施 ・かがやき特別支援学校と連携した地域支援の実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>・公開研修会参加者のアンケート満足度 80%以上 ・体験研修参加者のニーズに対する満足度 80%以上</p> <p>○児童生徒が主体的に活動できるための授業づくりや支援についての取組</p> <p>【活動指標】</p>	<p>・公開研修会3講座実施 ・体験研修2日間実施 ・地域支援23回</p> <p>・参加者の満足度 100% ・参加者の満足度 100%</p>	

<p>性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研修、教育部門別研修会等の実施 7回 ・専門家を招聘したケース検討会の実施 4回 ・キャリア教育プログラムに基づく授業公開(教員相互による授業見学と研究協議)の実施(再掲) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学部の授業公開への参加 教職員全員 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部研修 5 回、教育部門別研修 1 回実施 ・ケース会議 3 回実施 ・授業公開 35 回 <p>・教職員全員参加</p>	
<p>○危機管理等における対応力の向上</p>	<p>○教職員の防災意識の向上と、火災・地震等を想定した訓練の実施</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の防災学習の実施 年1回 ・避難訓練の実施 年 3 回 ・教職員対象の防災危機管理等の研修 年1回 ・防災等の等の取組について、プリント等による保護者への情報提供 年 3 回 <p>○教職員の感染症に対する意識向上と感染予防に対する取組の実施</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止の取組を進めつつ、安心・安全な教育環境を整えるとともに行事や教育活動の実施形態等の見直しを進め、教育内容の保障を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスク等の着用、手洗い・手指消毒の実施率 100% ・放課後の教室等の清掃・消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ・まん防のため中止 ・避難訓練1回実施 ・教職員研修1回実施 ・防災だより4回発行 <p>・実施率 100%</p> <p>・毎日実施</p>	
<p>○関係機関・保護者との連携・信頼関係の強化</p>	<p>○保護者が早期から進路について考える機会、障害者総合支援法に定められている様々な福祉サービス、石薬師分校(高等部)についての情報を知る機会の設定</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査の記述内容を参考に、懇談が必要と判断した保護者について、新型コロナウイルス感染拡大に配慮した形での進路相談会の実施(福祉サービスの説明、自宅近隣の施設の確認、本校及び石薬師分校の進路指導計画等の説明) ・進路だよりなど書面を通じた進路先についての情報提供 ・中学部生徒保護者の石薬師分校の見学会や授業体験の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導についての保護者アンケートの満足度 80% ・石薬師分校の見学会や体験会の実施率 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路懇談会の実施中学部 7 回 高等部 2 回 ・進路だより 4 回発行 ・中学部 3 年生の分校体験会実施 <p>・未実施</p> <p>・実施率 50%</p>	
<p>○信頼される学校、働きやすい職場づくりの推進</p>	<p>○鈴鹿病院との円滑な連携による病棟生の教育内容の充実</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟との連絡会、生徒指導懇談会の定期的な開催による 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡会:月 2 回実施 	

<p>○情報提供による信頼の構築</p>	<p>児童生徒の支援や安全衛生に関する情報共有</p> <p>○コンプライアンスの遵守による信頼される学校づくりと働き方改革に基づく働きやすい職場づくりの取組</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止研修プログラムとコンプライアンスミーティングの実施 年14回 ・学校倫理委員会等によるコンプライアンスの相互チェック ・オフサイトミーティングによる職員間の円滑なコミュニケーションの促進 1回 <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 95%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 85%以上 <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の設定 1回/月 ・ノー会議デーの設定 25日/年 ・時間外労働の「上限時間」の遵守 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケートによる働きやすい職場率 80%以上 <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・一人当たりの月平均時間外労働 30時間以下 ・一人当たりの年間休暇取得日数 20日以上 <p>○本校の取組についての情報発信</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な媒体を活用し、学校の取組を発信する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの情報発信 各学部月1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止研修プログラム年14回実施 ・オフサイトミーティング1回実施 ・100% ・94% ・ ・定時退校日月1回設定 ・ノー会議デー年25回設定 ・全員厳守 ・職員アンケート満足度 77% ・年360時間越労働者0人 ・月45時間越労働者0人 ・30時間以下 ・20日以上 <ul style="list-style-type: none"> ・各学部ほぼ月1回更新 	
----------------------	--	---	--

改善課題

センター的機能の充実については、指標としては達成できたものの、今後はオンラインなどの工夫により参加者数を増やす取組が求められる。

危機管理等における対応力の向上については、感染防止の観点から中止になり、実施回数としては年度当初の計画より少なくなった。来年度もコロナ禍の影響を受けることが見込まれることから、限られた実施のなかで、いかに学習内容を充実させるかといった検討と取組が必要である。

働きやすい職場づくりの推進については、職員アンケートの指標を満たすことができなかった。ハード面など改善の難しい課題もあるが、職場の風通しをよくするとともに、一人ひとりが生き生きと輝き、働きやすいと思える職場づくりになるよう、さらなる改善に取り組む必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・感染対策について、保護者アンケートでも満足度が高いことは評価できるが、さらなる改善につなげていくことが大切である。・保護者アンケートの意見や自由記述欄の声や意見をていねいに聞いて改善することが必要である。・学校間交流や居住地校交流などの取組を通して、さまざまなことを学ばせていただいている。コロナ禍で直接交流が難しい場合は、オンライン交流の内容を充実させていくことが求められる。・学校の評価委員を務めるまでは特別支援学校での取組を知らなかったもので、地域への情報発信のあり方を検討することが大切である。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の影響から、授業公開や体験的な学習の充実など、実施回数を指標とした取組については、達成することができなかった。指標の見直しを行うとともに、取組内容の充実をどのように図るか、また、PDCAの視点で来年度の改善策を検討し、取り組んでいく必要がある。・令和5年度の肢体不自由児教育の校区再編に伴う、教職員の専門性向上と教育内容の充実に取り組む必要がある。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・令和5年度の中学部知的課程の分校移転に伴い、分校との連携を図る必要がある。・オンラインを活用したセンター的機能の充実や、研修会のあり方を検討していく必要がある。・ノー会議デーや定時退校日を意識した学校運営、ワークシェアの推進など、風通しをよくし、教職員が働きやすいと思える職場づくりに取り組んでいく必要がある。